

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [福澤諭吉伝 \(2\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

福澤諭吉伝 (2)

1854年、兄の三之助が仕事で長崎に行くことになりました。

諭吉が19歳の時です。

三之助は諭吉と一緒に長崎へ行くことを勧めてくれました。

ちょうどその頃は、ペリーの来た時で、アメリカの軍艦が江戸に来たと大騒ぎしていた時でもあり、同時に砲術のことがよく議論されていました。

「これからは外国語が読めなくてははいけない。私と一緒に長崎へ行って、オランダ語の勉強をすといい」

諭吉は兄の言葉に感激して、兄と一緒に長崎に行くことにしました。

幕府は「鎖国令」を出していましたから、貿易もオランダと中国だけと決め、長崎の港に出入りを許していました。

長崎の出島には「オランダ屋敷」が築かれ、そこにはたくさんの洋書があり、勉強をしようという志を抱いた若者たちが各藩からいっぱい来ていました。

諭吉は家老の息子である奥平吾岐が借りていた町中の寺の一室を借りました。

しかし諭吉の学問が進むにつれて、これを妬んで吾岐は上役のように振る舞い始めます。

嫌になった諭吉は長崎奉行所の役人である砲術家の山本物次郎の家の玄関番をすることにして、家老の息子から離れました。

山本家で諭吉はあらんかぎりの仕事を働き、なんでもしましたから、最後には養子に出来ないかとまで言われるようになります。

江戸湾に浮かんだアメリカの4隻の大きな黒船によって、日本は泰平の眠りを覚まされました。

外国との戦争に備えて、各藩は日本よりも進んでいる西洋の砲術を学ばなければなりません。

そうした武士たちが山本家に大勢学びに来ていました。

西洋の砲術を学ぶのには、オランダ語が分からなければなりません。

諭吉は三之助が戻ってからも、オランダ語を長崎の通訳や、山本物次郎について熱心に学び続けました。

諭吉のオランダ語はめきめき上達し、各藩から長崎に来ていた学生たちの間でも有名になっていきます。

そんな矢先のことです。

突然、親戚から母が病気だから帰ってくるようにとの手紙が来ます。

しかしこれは諭吉の成功を妬んだ家老の息子の企みでした。

父に頼んで長崎を引き上げさせたのです。

上からの命令ならば従わなければなりません。

諭吉は命令通り長崎は引き上げますが、それならば一旦大阪へ戻ったのちに江戸へ行って勉強しようと考えました。

大阪に着いて兄に相談すると、江戸へ行かなくとも大阪に有名な蘭学の先生がいることを知らされます。

江戸からも多くの武士が学びに来ているという緒方洪庵のことでした。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.